

閉会の挨拶



E. Batjargal
モンゴル日本語教師会 会長

私、モンゴル日本語教師会の会長を務めさせて頂いておりますバトジャルガルと申します。閉会に当たりまして、主催者を代表致しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今回のシンポジウムは、モンゴル日本語教師会設立20周年の記念すべき年に行われまして、皆様のご協力なしでは実行できなかった事を改めてこの場をお借りして、シンポジウムの功績を称え、感謝の意を表します。本日、ご講演とご発表頂きました先生方、大変有意義なお話を頂き、まことにありがとうございました。いずれも、モンゴルの日本語教育のためになるお話で、本日ご参集の先生の方々の今後の参考になれば、主催者として、この上ない幸せかと存じます。

モンゴル日本語教師会のメンバーで長年にわたり初中高等日本語教育のスタンダードについてお話をされ、その結果、初中等教育機関で日本語が学べる「にほんごできるモン」教科書が作成され、現在その教科書がいくつかの学校で使用されてきました。今回のシンポジウムでは、この教科書のよい面と悪い面に触れ、直接使われている先生方からもご意見、ご感想が聞けた大変効果的なシンポジウムとなりました。その教科書を使う上で、片桐先生の『「にほんご できるモン」が及ぼす生徒と教師への影響と今後の課題」、嶋田先生の「連携を可能にする教師の力―つながり重視の日本語教育―」というとても興味深い幅広い内容の基調講演、貴重なアドバイスが、今後のモンゴルの日本語教育に大きな力と勉強になる事が期待され、シンポジウムの目的が十分に果たされたのではないかと存じます。

今回のシンポジウムの目的は、

1. 過去10年間の「日本語教育シンポジウム」で形成されたネットワークをさらに緊密なものにし、共通課題の解決に協力して取り組み機運を高める事でしたが、十分に高められたと思われまます。
2. 初中等教育機関におけるスタンダード日本語教材実践教育の結果をシンポジウムの発表で共有する事でしたが、それも講演者、発表者の皆様のおかげで果たされました。
3. 日本から招いた講師のワークショップ及び講演に参加してもらう機会を提供するとともに、各講師からモンゴルにおける初中等教育機関における日本語教育スタンダード実践及びその高等教育との連携への助言をいただき、今後の方向性を確かめる事でしたがこれも先生方のおかげで果たされました。

ご講演とご発表者の皆様方が、本日に向けてこの目的を果たすために大変ご苦労されて準備して来られましたことに対しまして、改めまして感謝申し上げます。また、本日も臨席を賜りましたご来賓の皆様方、お忙しい中お足を運ばれた先生方、長時間にわたりましてご清聴を賜り、まことにありがとうございました。

今後とも、わたくしどもモンゴル日本語教師会の活動に対しまして、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、モンゴル日本語教師会設立20周年記念事業・第11回日本語教育シンポジウムの主催機関、共催機関、後援機関、そして何よりもお集まりいただいたモンゴルの日本語の教育のために思う先生方にモンゴル日本語教師会を代表いたしまして改めて感謝を申し上げるとともに、このシンポジウムを契機にモンゴルの日本語教育の改善が進むことを祈念いたしまして、本日もご参集のご来賓の皆様方、また先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。本日は、本当にありがとうございました。



集合写真